



No.52

UT University Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2010

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

湖畔広場に新しい東屋ができました

富士演習林

2010年10月27日(水)、富士演習林湖畔広場に新しい東屋が完成しました。昨年4月に構想し、今年8月の運動会総務部の学生さんとの建築共同作業を経て、最後の屋根の仕上げは落葉したカラマツの葉を掃きながらの作業となりました。設計は秩父演習林しおじの会の清水昭治さん、コンセプトは薪棚、富士演習林らしい東屋です。壁の丸太材は、除間伐木と山中寮内藤セミナーハウス建築の際、伐採された木を有効に活用し、梁、屋根の板には、富士演産のヒノキを使っています。積んだ丸太の隙間からは山中湖もまた違ってみえます。これまで以上に多くの方に利用していただきたいと願っています。



癒し効果抜群！研究打合せや各種会議などにも是非ご利用ください

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

市民公開セミナー「森林環境の保全と持続的な木材生産～初秋の演習林を訪ねて～」が開催されました

北海道演習林

これまで市民公開セミナーは春に行っていたのですが、今年は初めて秋の2010年10月3日（日）に開催しました。今回は直営生産現場、択伐施業林などの現場を多く見学してもらい、市民の方々に北演で取り組んでいる活動を理解してもらうことを目的としました。

開催日は前日の好天から一変し、雨こそ降らなかったものの肌寒い曇天でした。参加者が少人数だったため林内観察の時間を多くとり、丁寧に説明し、質問に答える時間も確保できました。きれいに紅葉している樹木も少しあり、秋の森林を体感して頂けたと思います。今回は少数精鋭の参加者という感じで皆さん熱心に見学しておられました。



熱心に林内を見学する参加者の皆さん

秋の自由見学日

秩父演習林

秋の自由見学日を2010年10月29日（金）に行いました。コースは、今春に初めて自由見学日を行い好評だった樹木園と滝川軌道跡です。

予定していた翌日30日は残念ながら台風の影響で中止となってしまいましたが、29日は青空も見える穏やかな一日となりました。紅葉のピークには少し早かったのですが、来場者の皆さんは、樹木園では最近新しくした樹木ラベルもあわせ

て見ながらゆっくり散策し、滝川軌道跡ではかつて木材を運び出すのに活躍したレールの跡をたどりながら溪流沿いの自然を楽しめました。



秩父演習林サポーターしおじの会会員のガイドで樹木園を歩く

温室特別公開日

樹芸研究所

2010年10月14日（木）に「染料植物」をテーマに地元の15名の方の参加のもと温室特別公開を開催しました。参加者は、温室内の染料植物を中心に説明を受け、体験コーナーではインドアイとタデアイのたたき染めを体験しました。

参加者の中には、染色に関心のある方も多く見られ、「普段使う染色材料がどんな植物からつくられるのかを知って、今までとは違った視点から染色に取り組める。」といった感想も寄せられました。

たたき染めでは、手首の痛さもなんのその一生懸命にコンコンとたたき、個性的なコースターと手提げ袋が出来上がりました。



たたき染めの作品

房総半島南部に位置する千葉演習林では、地元の鴨川市及び君津市と地域協定を結ぶなど、地域との交流を積極的に行っています。なかでも、君津青葉高校(旧君津農林高校)は、君津市久留里に位置し、千葉演習林にとってゆかりの深い学校で、私も卒業生の一人です。この高校では、環境教育に力を入れていて、専門科目を選択した2,3年生が毎年6月頃演習林に実習にやってきます。実習は1泊2日で行います。初日は郷台作業所から清澄作業所にかけて、植物についての実習を行い、60種程採取します。採取した植物はさく葉標本にし、後に学校でのテストに使うそうです。また、初日の夕方には、教員による東大演習林についての講義を行っています。2日目は森林博物資料館の見学から始まり、演習林のフィールドを実際に体験してもらうために林内に入ります。堂沢の針葉樹天然林や桜ヶ尾老齢林など大学演習林だからこそ残っている林を肌で感じ、森林のスケールの大きさを体験してもらっています。後日、実習生はこれらの体験を文化祭で発表するそうです。



森林博物資料館での見学

私もこの実習を体験するまでは、森と言えばスギやヒノキの人工林をイメージしていましたが、広大で多種多様な森林を見て、森林の持つパワーを肌で感じる事ができ、大学演習林とはこうした森林を相手にしたとてもスケールの大きな教育研究施設であると学びました。そして現在教える側として、実習をとおして学生が森林について一つでも多くのことを学び、体感できるよう協力しています。

短い実習ですが日常生活でなかなか体験することのできない様々な体験をとおして、将来、森林と人との関わりを大切に思える若者達が多く育つことを望んでいます。

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせください。

9月	4~5日 第39回地衣類研究会大会 (千葉)	6,7日 体験ゼミ「長期生態系入門」(秩父)
	9日 サポーター養成講座「育林」(秩父)	7日 「子ども樹木博士」認定会(田無)
	7~10日 体験ゼミ「フィールドで考える野生動物の保護管理」(千葉)	7,13日 森林調査学習ツアー(愛知)
	7~10日 体験ゼミ「森林の保健休養機能~癒しの空間を考える」(富士)	11日 サポーター養成講座「秩父演習林の歴史」(秩父)
	7~10日 体験ゼミ「夏版 伊豆に学ぶ2」(樹芸)	26日 富良野地区合同ワークショップ(北海道)
	12日 公開講座「ベレット・薪利用で創る癒しの森」(富士)	26,27日 秋の一般公開(千葉)
	13~16日 体験ゼミ「北海道の自然環境と森づくり」(北海道)	27,28日 秋の休日公開(田無)
	16日 後藤・五十嵐両技術職員が森林管理技術賞を受賞	12月
	27~30日 体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)薪炭林を満喫しよう!」(樹芸)	3,4日 秋の一般公開(千葉)
10月	2日 教職員向け特別ガイド「きのこ」(富士)	11日 サポーター養成講座「森林環境教育」(秩父)
	3日 市民公開セミナー「森林環境の保全と持続的な木材生産~初秋の演習林を訪ねて~」(北海道)	12日 影森祭(秩父)
	7日 サポーター養成講座「公益的機能」(秩父)	1月(2011年)
	9,23日 体験ゼミ「キノコに親しむ」(田無)	13日 温室特別公開日(樹芸)
	14日 温室特別公開日(樹芸)	30日 愛知演習林・犬山市共催シンポジウム「ナラ枯れと身近な森の管理について考える」(愛知)
	16~17日 体験ゼミ「キノコに親しむ」(富士)	2月
	26日 天津小学校「緑の教室」(千葉)	3日 森林博物資料館公開(千葉)
	29日 自由見学日(秩父)	11~13日 体験ゼミ「マツ・オン・ザ・ビーチ~現代的白砂青松論」(愛知)
11月	5日 南上小学校森林教室(樹芸)	22~25日 体験ゼミ「森の木づかい」(千葉)
	6日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」(千葉)	26~28日 体験ゼミ「ダムと土砂」(愛知)
	6,7日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)	3月
		2~4日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ~北海道演習林」(北海道)

凡例・・・無印:一般向け :学生向け :その他

オオシマザクラ

バラ科 サクラ属

学名：*Prunus speciosa*

樹芸研究所

オオシマザクラは伊豆大島、伊豆半島、房総半島などの限られた地域に分布しています。葉の展開とともに白い花を咲かせます。葉は丸みがあり桜餅に用いられます。樹芸研究所のある南伊豆町のお隣、松崎町は桜葉全国需要の7割を生産しています。腰の高さに揃えた桜葉の畑があちらこちらで見られます。



2009年の五月祭から、本郷・駒場の両学園祭に伊豆ゼミ燻製屋が出店しています。燻製チップはもちろん樹芸研究所産です。全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」シリーズに参加した学生有志が、伊豆ゼミで「学んだこと」や「その気分」を伝えたい、再びゼミの仲間と協働したい、そんな気持ちで集います。伊豆の味がする燻製を食べたい方、学園祭で伊豆の燻製屋をお訪ねください。

名所名物案内

秋の猪ノ川溪谷

千葉演習林

演習林の紅葉前線（最近「カエデの紅葉日の等期日線」というそうです）南下は、9月下旬より北海道演習林にある大麓山の山頂から始まります。それが房総半島の南端にある千葉演習林の猪ノ川溪谷に届くのは、11月下旬から師走の声を聴く頃となります。

千葉演習林では1997年より紅葉の時期にあわせて、猪ノ川溪谷を舞台に「秋の一般公開」を開催しています（開催日程など詳細につきましては千葉演習林のHPでご確認ください）。千葉演習林内の猪ノ川周辺は、暖温帯林と冷温帯林がせめぎ合うところに位置しています。そのため、常緑広葉樹の濃い緑を背景に、カエデ類などの落葉広葉樹が紅や黄など様々な彩りを楽しませてくれます。また、公開区間の中程にあるメタセコイア（針葉樹）が、輝くような黄金色を楽しませてくれます。ただし、カエデ類とメタセコイアでは、メタセコイアの方が一週間ほど早く色づき、色づいてから落葉するまでの期間が短いので、両方の彩りを一日で楽しめた方は運が良かったと言えるかも知れません。



落葉広葉樹の彩り

紅葉や花見の見頃を予想することは難しいものですが、「秋の一般公開」ではカエデ類かメタセコイアのどちらかが、きっと素敵な彩りを見せてくれると思います。どうぞ一度、足をお運びになってみてください。



メタセコイアの黄葉

科学の森ニュース（UT University Forests News）

第52号（No.52）

発行日 平成22年12月10日

発行人 白石則彦

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp